



H.Yamanaka

THE CHALLENGE CUP

第75回 チャレンジカップ (GⅢ)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞 43,000,000円 17,000,000円 11,000,000円 6,500,000円 4,300,000円
付加賞 546,000円 156,000円 78,000円



レース映像は
こちらでご覧
いただけます。

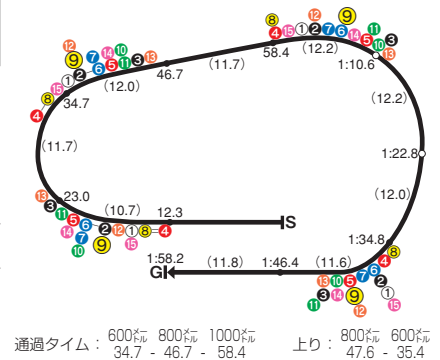
3歳以上、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 3歳55⁺、4歳以上57⁺、牝馬2⁺減、2023.12.2以降GⅠ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2⁺増、
牝馬限定GⅠ競走またはGⅡ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1⁺増、2023.12.1以前のGⅠ競走(牝馬限定
競走を除く)1着馬1⁺増(ただし2歳時の成績を除く)

2024.11.30 京都 晴・良 芝2000⁺ 国産 (特指)

着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600 ⁺)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑨	ラヴェル	牝4	55	川田将雅	1:58.2	9-9-7-6	35.0	468(±0)	6.5③	矢作芳人(栗東)	109
2	①	ディーブモンスター	牡6	57	浜中 俊	1 ¹ / ₄	12-12-12-10	35.0	468(-4)	10.4⑥	池江泰寿(栗東)	109
3	②	エアファンデイト	牡7	57	武 豊	³ / ₄	14-14-14-15	34.8	466(+12)	84.4⑨	池添 学(栗東)	108
4	⑫	ボルドグフーシュ	牡5	57	松山弘平	3	11-9-10-6	35.8	516(+16)	6.0②	宮本 博(栗東)	103
5	⑪	セイウンハーデス	牡5	57	幸 英明	ハナ	3-3-4-1	36.1	490(+14)	16.5⑨	橋口慎介(美浦)	
6	⑦	マイネルモント	牡4	57	田口貴太	¹ / ₂	6-7-9-9	35.9	458(±0)	43.6⑫	高木 登(美浦)	
7	⑭	ダノンエアズロック	牡3	55	R.ムーア	1	4-5-6-4	36.3	500(+2)	4.7①	堀 宣行(美浦)	
8	⑥	コガネノソラ	牝3	53	丹内祐次	¹ / ₂	6-7-7-10	36.2	446(+2)	15.2⑧	菊沢隆徳(美浦)	
9	⑤	アルビージャ	牡6	57	C.ルメール	2	4-5-4-6	36.7	524(+2)	7.2⑤	手塚貴久(美浦)	
10	⑬	ラークルフ	牡5	57	M.デムーロ	クビ	12-13-13-10	36.3	500(±0)	35.9⑪	宗像義忠(美浦)	
11	②	エビファニー	牡5	57	杉原誠人	4	9-9-10-10	37.2	508(+6)	11.4⑦	宮田敬介(美浦)	
12	④	マキシ	牡4	57	C.デムーロ	5	15-15-14-14	37.7	514(-4)	6.6④	辻野泰之(栗東)	
13	⑩	ルベルカーリア	牡6	57	岩田望来	1 ¹ / ₄	6-3-3-4	38.8	514(-2)	158.1⑮	友道康夫(栗東)	
14	③	バビット	牡7	57	団野大成	³ / ₄	2-2-2-2	39.0	466(-4)	24.2⑩	浜田多実雄(栗東)	
15	⑮	アウスヴァール	騾6	57	古川吉洋	¹ / ₂	1-1-1-2	39.1	490(+8)	87.8⑭	昆 貴(栗東)	

単勝⑨650円(3⁺%) 複勝⑨250円(3⁺%) ①280円(5⁺%) ⑫1,620円(14⁺%) 枠連①-⑤3,130円(17⁺%)
馬連①-⑨3,100円(14⁺%) ワイド①-⑨1,080円(9⁺%) ⑥-⑦5,880円(69⁺%) ①-⑫7,860円(71⁺%)
馬単①-⑤5,290円(19⁺%) 3連複①-⑨75,810円(211⁺%) 3連単①-①⑤290,420円(909⁺%)



アラカルト

- ・川田将雅騎手はレイババレで制した20年に続くチャレンジC3勝目。JRA重賞は24年11勝目、通算141勝目
- ・矢作芳人調教師はチャレンジC初勝利。JRA重賞は24年初勝利、通算59勝目
- ・キタサンブラック産駒はJRA重賞通算16勝目
- ・4歳馬の勝利は22年ソーヴァリアントに続く通算32回目
- ・牝馬の勝利は20年レイババレに続く通算17回目

ラヴェル Ravel

牝 鹿毛 2020.2.14生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・南キャロットファーム 栗東・矢作芳人厩舎
馬名意味・人名より。母名より連想

シュリリー-AUS系 F7-d

キタサンブラック 鹿毛 2012	ブラックタイド 黒鹿毛 2001	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘアIRE
	シュガーハート 鹿毛 2005	サクラバクシンオー オトメゴコロ
サンプルエミューズ 栗毛 2010	ダイワメジャー 栗毛 2001	サンデーサイレンスUSA スカーレットブーケ
	ヴィートマルシェ 鹿毛 2002	フレンチデピュティUSA キョウエイマーチ

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA S3×M3
ノーザンテストCAN M4×S5
Lyphard S5×S5×M5

INTERVIEW

大谷渡 厩舎長（ノーザンファーム早来）

ここでの重賞勝利が嬉しかったです

夏は牧場で調整を行ってきましたが、戻ってきたばかりの頃は精神面でストレスも感じられました。ただ、リフレッシュしてくるにつれて調教の動きも良くなり、いい状態で本州へ送り出すことができました。エリザベス女王杯の走りを見て、いい頃に戻ってきたと感じていたので、ここでの重賞勝利が嬉しかったです。25年の活躍も楽しみになります。

N.Inaba



10月からの瀬まで続く淀のロングラン開催も終盤戦に突入。阪神競馬場のスタンドリフレッシュ工事にともない、京都に舞台を移して争われたチャレンジCは、リステッド2勝（アイビス、プリンシパルS）の3歳馬ダノンエアズロックが頭ひとつ抜けた支持を集めた。1年7カ月の長期休養を乗り越えて戦列に戻ってきた菊花賞、有馬記念の2着馬ボルドグフーシユがこれに続いたものの、勝利の女神が微笑んだのは2頭に次ぐ支持を集めていた4歳牝馬。2年余り、白星から遠ざかっていたラヴェルが連敗のトンネルを抜け出し、重賞2勝目を挙げた。

ポンと好スタートを切ったバビット

2歳時にはリバディアイランドを2着に下してアルテミスSに優勝。クラシック候補と脚光を浴びた本馬だが、3歳時はオークスの4着が最高着順、4歳を迎えてからも「着止まり」のレースが続いていた。それでも前走のエリザベス女王杯で周囲の低評価12番人気を覆して2着に追い込み、復調を示すと、この日は牡馬勢を一蹴して待望の重賞2勝目をマーク。ナミュール半妹にあたる良血からも、新年はいっそうの飛躍に期待がかかる。

父キタサンブラック

北海道日高町 ヤナガワ牧場生産 中央20戦12勝（ジャパンC^{G1}、菊花賞^{G1}、有馬記念^{G1}、天皇賞（春）^{G1}2回、天皇賞（秋）^{G1}、大阪杯^{G1}、京都大賞典^{G2}、スプリングS^{G2}）、年度代表馬2回、最優秀4歳以上牡馬2回、18年から供用〔代表産駒〕イクイノックス（ジャパンC^{G1}、有馬記念^{G1}、天皇賞（秋）^{G1}2回、宝塚記念^{G1}、ドバイシーマクラシック・首^{G1}）、ソールオリエンズ（皐月賞^{G1}）、クロフデュノール（ホープフルS^{G1}、東京スポーツ杯2歳S^{G2}）、ウィルソンテンーロ（JBCクラシック^{JhI}）、ガイアフォース（セントライト記念^{G2}）、スキルヴィング（青葉賞^{G2}）、他に重賞・リステッド競走勝ち馬多数

母サンプルエミューズ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央27戦3勝（芙蓉S^{Gp}、千葉日報杯、フェアリーS^{G3}3着）

ヴェスターヴァルト（17 馴父ノヴェリストIRE）中央22戦4勝（飛騨S、福島テレビオーブン^{G2}2着、ファルコンS^{G2}3着、橘S・L3着）、障害2戦0勝
ヴァルドレス（18 牝父キングカメハメハ）不出走

ナミュール（19 牝父ハービンジャーGB）中央16戦5勝（マイルチャンピオンシップ^{G1}、富士S^{G2}、チューリップ賞^{G2}、赤松賞、安田記念^{G1}2着、秋華賞^{G1}2着、東京新聞杯^{G2}2着、オークス^{G1}3着）、首、香2戦0勝（ドバイターフ・首^{G1}2着、香港マイル^{G1}3着）

ラヴェル 本馬（20 牝父キタサンブラック）中央13戦3勝（チャレンジC^{G2}、アルテミスS^{G2}、エリザベス女王杯^{G1}2着）獲得総賞金165,947,000円

アルセナール（21 牝父エピファネイア）中央5戦1勝（クイーンC^{G2}2着）
ブルージュ（22 牝父ブリックスアンドモルタルUSA）中央2戦0勝 [※]

※23（不妊胎）、24（流産）

祖母ヴィートマルシェ

北海道早来町 ノーザンファーム生産 中央1勝。22年用途変更

サンプルエミューズ（10 前出）

アヴニールマルシェ（12 馴父ディーブインパクト）中央1勝（東京スポーツ杯2歳S^{G2}2着、新潟2歳S^{G2}2着）、障害1勝

マルシュロレーヌ（16 牝父オルフェヴル）中央4勝（平安S^{G2}3着）、地方4勝（エンプレス杯^{JhII}、レディズプレリウド^{JhII}、ブリーダーズゴールドC^{JhIII}、TCK女王盃^{JhIII}）、北米、沙1勝（BCディスタフ・米^{G1}）、NAR特別表彰馬

バーデンヴァイラー（18 牝父ドゥラメンテ）中央5勝（総武S^{Gp}）、地方2勝（マーキュリーC^{JhIII}、佐賀記念^{JhIII}、名古屋大賞典^{JhIII}3着）

牡馬勢を一蹴して待望の重賞2勝目

をアウスヴァールが外からかわし、主導権を奪取。バビットは競り合いを嫌って2番手に控えたものの、向正面に入るとルベルカリアが前の2頭に絡み、前半10000mの通過が58秒4と少し速い流れでレースは進む。ダノンエアズロックは5番手の外につけ、ラヴェルの川田将雅騎手は中団を追走。ボルドグフーシユはその背後の外で折り合いに専念した。

3コーナーの坂の下りで馬群は凝縮、4コーナーでは1年5カ月ぶりに復帰へこぎつけた七夕賞の覇者セイウンハデスが先頭に立って押し切りを狙う。とはいえ、楽な手応えを保ったまま、先行勢の背後に取り付いた川田騎手が加速を促すと、ラヴェルも鋭い末脚を發揮。セイウンハデスを一気にかわして抜け出し、ディーブモンスター以下の反撃もまったく寄せ付けずにゴールへ飛び込んだ。

2歳時にはリバディアイランドを2着に下してアルテミスSに優勝。クラシック候補と脚光を浴びた本馬だが、3歳時はオークスの4着が最高着順、4歳を迎えてからも「着止まり」のレースが続いていた。それでも前走のエリザベス女王杯で周囲の低評価12番人気を覆して2着に追い込み、復調を示すと、この日は牡馬勢を一蹴して待望の重賞2勝目をマーク。ナミュール半妹にあたる良血からも、新年はいっそうの飛躍に期待がかかる。